

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401395		
法人名	有限会社タグ		
事業所名	グループホームゆう 1F		
所在地	名古屋市長区桶狭間北3丁目111番地		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関連施設が3施設あり情報交換しあいケアの充実がはかれます。母体が病院の為精神疾患の方も医師の指導の下、適した対応が可能です。訪問診療、看護、歯科、も定期的に有ります。人工透析も協力医療機関である透析センターで受けて頂けます。スタッフの人間関係がよく辞職する方も少なく利用者様のケアの統一もはかれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosyoCd=2371401395-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年2月20日		

ホームは、母体でもある医療機関や関連の介護事業所にも接しているため、医療機関への受診支援や緊急時の対応についても柔軟な体制が整えられている。災害時の対策として、ホームでは毎月の避難訓練が行われており、定期的に振り返りの機会をつくるとともに、利用者の居室の前には車椅子や杖等のイラストで利用者の身体状態が表示してあり、救急隊員が即座に把握できる工夫も行われている。介護計画については、現状と計画の内容が連動できるように、個人記録用紙に記号を記載する工夫も重ねながら、職員間で細かな取り組みを行い、日常的に計画の内容の把握と変化をつかむような取り組みが行われている。また、食事の提供についても、ホーム職員で手作りで行う際には、利用者もできることに参加しており、食器も陶器の物を使う等の細やかな配慮も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後全員で唱和し共有し実践につなげている	利用者にゆっくり、のんびり過ごしてもらえるようなホームを目指した内容の理念を掲げ、玄関をはじめ、ホーム内への掲示も行っている。職員は、毎日理念の唱和を行っており、日常の支援への反映につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、テラス越しで挨拶したり定期的に訪問もある	地域の行事に参加する取り組みが行われ、近隣の公園で行われている行事に参加する交流が行われている。また、関連事業所とも連携しながら、地域の方に向けた市民講座を開催しており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関連の事業所とで市民講座を開催し認知症についての理解、支援の方法を地域の人びとに活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度開催している。報告書は職員、御家族様に反映している	会議は、関連事業所との合同で開催している。複数の地域の方の参加が得られていることもあり、情報交換の機会につなげるとともに、当ホームをはじめ、法人全体の活動を知っていただく機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の連絡会には参加している	運営法人の事務局を通じた、市の担当部署との情報交換の他にも、市の講習会等の際には、ホームからも職員が参加するよう取り組んでいる。また、地域包括支援センター職員とも、情報交換等につとめている。	ホームでは作品等を利用者が作っている。以前は作品展等への協力を行っていたこともあるため、区の担当部署や地域包括支援センター等とも連携した取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲示し取り組んでいる	ホームは、身体拘束を行わない方針を掲げ、職員間で連携しながら、現状、玄関には施錠を行わずに対応している。また、運営法人による定期的な研修会の機会もつくられており、職員の振り返りの機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で防止の徹底を学び職員同士においても注意しあい防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度はないが合同会議でケースワーカーによる講義を受けた。活用出来るよう理解し支援をしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務局で行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱設置、ユーザー評価に参加しているノートを作成し話し合い改善に努めている	ホームで開催している敬老会等の行事には、家族にも参加を呼びかけ、家族との交流につなげている。玄関に意見箱の設置を行っている他、市のユーザー評価の取り組みも行われている。また、ホーム便りを毎月発行し、個別のコメントを添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で要望等受け入れる機会はあるが反映されている部分もあるがされてない事もある	ホームでは、毎月の定期的な職員会議の他にも、毎日のミニミーティングの時間をつくっており、随時の情報交換等にも取り組んでいる。また、年2回の管理者による個別面談の機会もつくられており、一人ひとりの確認が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度があり意識の向上に努めている。年2回勤務場所の希望も取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて対象となる研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設と情報交換されている。名古屋市主催の研修に参加しサービスの質を向上させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接に伺い基本情報に記入し全員に展開し安心の確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接や見学を積極的に受け入れ説明し不安要望に耳を傾け関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを見極め柔軟の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人にあった介護に努め個性、能力を大切に暮らしを共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ゆう便り、面会、電話等で状況を報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状、暑中見舞い、絵手紙等にて途切れない様支援している。面会時は居室にてゆっくりして頂いている	利用者の入居前からの交流を継続している方がおり、ホームへの訪問の機会もつくられている。また、家族、親族の協力も得ながら、遊興等の好きなことを継続している方もいる。また、時には自宅に戻り、様子を確認したり、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理、配膳、下膳、洗濯たたみ等で出来ない方の分も手分けしたり関係が築ける様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所はないが電話で報告受ける事はある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等で得た情報をスタッフ間で共有している困難な場合は本人本位の立場で支援している	職員は、担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、毎月の便りの作成等も通じて、利用者の意向等の把握と共有にもつなげている。また、毎月のカンファレンスの時間もつくられており、職員間での話し合いも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの話で以前の生活等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、申し送り等で状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、本人、スタッフ、御家族様の意見等出し合い定期的に見直し変化あればその都度対応している	介護計画は、基本、6か月で見直しており、日常的にも、介護計画の内容を個人記録に記載できるように記号も活用して連動するように工夫しており、日常的なチェックも行われている。また、モニタリングを3か月で行い、内容の評価につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきA,B,Cで評価している特変時はその都度記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望、状態に応じ計画を見直しニーズに対応できる限り添う様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会、夏祭り、カラオケ大会等に参加、ボランティアの方も定期的に訪問がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の要望がある場合は適切な医療が受けられる様支援している。	ホームでは、診療内容にも合わせて複数の医療機関と連携しており、職員による受診支援も行われており、医療機関とは密な連携に取り組んでいる。また、ホームには訪問看護による健康チェックが、日常的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師、訪問看護等に指導を受け適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺い家族、病院側との情報交換や相談し早期退院、退院後の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の同意書は頂いているが現在はまだはつきりしていない	現状、ホームでの看取り支援は行われていないが、看護職員を配置していることもあり、急変時等への対応の指導は行われている。家族とは、ホームで出来ることを確認しながら、次の生活場所も考えている。	利用者の状態変化やホームを取り巻く環境変化等、運営法人でも、重度の方への支援に、段階的に取り組んでいる。継続した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同会議で心肺蘇生の練習を行ったり、AEDの使用法の勉強会を行い実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1度の防災訓練を行っている。関連施設との連携を確認しあっている	ホームでは、避難訓練を毎月実施しており、職員間の細かな連携にも取り組んでおり、関連事業所との合同の訓練も実施している。また、地域の方との連携には法人でも取り組んでいる。また、ホームの倉庫内に、水、食料等の備蓄品の確保も行われている。	ホームの避難訓練への地域の方の関わりが深まることで、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時プライバシーを損ねないよう言葉かけで対応している。スタッフ間で注意し合う様にしている。	利用者の尊厳に配慮した対応を行うように、管理者より職員に伝えられており、職員の声かけ等で気になった際には、注意喚起にも取り組んでいる。また、運営法人でも接遇面に関する研修会の機会もつくられており、職員の振り返りの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定し易い様に選択肢を増やしたり時間をかけたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にしているがスタッフの都合を優先する場合もある出来る限り希望に添った生活の支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2か月に1度パーマ、カラー、カットを行っている。希望ある方は近くの美容院にもでかけられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1～2回程希望されるメニューで一緒に準備等し後かたづけも一緒に行っている	食事の提供については、外部からのおかず類の配食の日と、毎週、ホーム内での調理の日が設けられている。ホームでの調理の際には、利用者も出来ることに参加している。また、定期的なおやつ作りや季節等にも合わせた行事食の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、おやつを記録をしている。形状、量も一人、一人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自己にて出来る方はチェックをしたり出来ない方は介助し必ず行っている。週1回訪問歯科のアドバイスもいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導、おむつ使用の方でも昼間は出来るだけトイレでの排泄に支援をしている。	職員は、利用者毎に合わせた排泄チェックを行っており、日中と夜間で排泄方法を変える等の対応も行われている。また、オムツ着用だった方が、職員間で検討を重ねた結果、段階的に紙パンツ、布パンツに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、腹部マッサージ等で予防に努めている記録もする医者、看護師の指示の下で薬での対応もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からとある程度時間は決まっている。体調、希望に添う様にしている。	入浴は基本1日おきとなっているが、状況等に合わせた対応も行われている。重度の方も入浴をしてもらうように、職員複数での入浴介助も行われている。また、季節に合わせた柚子湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息したり気持ちよくねられる様寝具、室温、光等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の種類、用量、目的等見られる様に表を作成している。変更あればノートに記入し全員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、塗り絵、カレンダー、クロスワード、計算等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣においては出来る限り希望に添う様支援をしている。年1度は遠出する御家族様に声掛けするのが難しいです	利用者が日常的に外出ができるように、近隣の公園に散歩に出かけたり、個別の意向にも合わせた喫茶や買い物外出も行われている。また、季節に合わせた外出行事も行われており、花見や紅葉等の外出が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務局で管理している方が多い。希望あれば一緒に買い物に出掛け使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で御家族様と連絡されている方もおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けをしたり玄関、洗面所には花を飾ったりしている。	リビングはゆったりとした空間を確保しており、ソファも置かれてあり、利用者が思い思いに過ごすことができるようにしている。また、リビング等の壁には、行事の際の写真や季節に合わせた飾り付け等にも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがありテレビを見たりテラスのベンチで日光浴や景色を楽しんでそれぞれに過ごせる工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、三面鏡、タンス、ベッド、寝具等自由に持参されている	利用者の意向等にも合わせた居室づくりに取り組んでおり、自宅から使い慣れた鏡台や家具類をはじめとする持ち込みが行われている。また、居室内に趣味の物を飾ったり、仏壇等の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、浴室には手摺を設けてある。自室が解るよう目印や名前が掲げている		